Weekly report

MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円はレンジ相場でもみ合いか

［１１月２１日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　　11 月 14 日～ 11 月 18 日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	138.77	140.80(14)	137.68(15)	139.83	+1.02
ユーロ・ドル	1.0325	1.0479(15)	1.0272(14)	1.0369	+0.0022

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	27,899.77	-363.80	日本10年債利回り	0.249	+0.007
ダウ平均株価	33,546.32	-201.54	米10年債利回り	3.766	-0.047

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

２１日　独１０月生産者物価指数
２２日　ＮＺ１０月貿易収支
　　ユーロ圏９月経常収支
　　カナダ９月小売売上高
　　経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）経済見通し
２３日　ＮＺ準備銀行（ＲＢＮＺ）政策金利
　　独１１月製造業ＰＭＩ速報値、独１１月非製造業ＰＭＩ速報値
　　ユーロ圏１１月製造業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月非製造業ＰＭＩ速報値
　　英１１月製造業ＰＭＩ速報値、英１１月非製造業ＰＭＩ速報値
　　米１０月耐久財受注、米新規失業保険申請件数
　　米１１月製造業ＰＭＩ速報値、米１１月サービス業ＰＭＩ速報値
　　米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
　　米１０月新築住宅販売件数
　　米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨
２４日　日本９月景気動向指数改定値
　　独１１月ｉｆｏ景況感指数
　　米国休場（感謝祭）
２５日　ＮＺ第３四半期小売売上高
　　独第３四半期ＧＤＰ確報値

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】ドル円は１０日の米消費者物価指数の下振れを受けての急落したことに対する反動高が警戒される。ただ、ＦＲＢによる利上げペースの減速の可能性が高まったことで、ドルは上値の重い展開が見込まれるとした。

【米生産者物価指数も予想を下回る】

１５日に発表された１０月の米生産者物価指数は、１０日に発表された１０月の米消費者物価指数に引き続き、市場予想を下回った。前月比は＋０．２％（予想は＋０．４％）、前年比は＋８．０％（予想は＋８．３％）、コアは前月比が変わらず（予想は＋０．４％）、コア前年比は＋６．７％（予想は＋７．１％）となった。

米生産者物価指数の前年比は、７月が＋９．８％、８月が＋８．７％、９月が＋８．４％（改定値）、１０月が＋８．０％と伸びが鈍化している。コア前年比も７月が＋７．７％（改定値）、８月が＋７．２％（改定値）、９月が＋７．１％（改定値）、１０月が＋６．７％となっている。いずれもまだ高水準ながら、低下傾向を見せている。

なお、米消費者物価指数の下振れ以降は、市場では利上げペース減速期待が高まっている。米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）高官からは、利上げペースの減速を示唆するよ

うな発言が出ている一方で、そうした動きにクギを刺す発言も出ている。

１４日に米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）のブレイナード副議長は、「近いうちに緩やかな利上げペースへ移行することが適切になろう」「引き締めの影響が波及する可能性を重点的に注視する」との認識を示した。１５日にはハーカー米フィラデルフィア連銀総裁が「来年のどこかの時点で利上げ打ち止めを予想している」「今後数カ月のうちに利上げペースが鈍化する」などと述べた。１６日にウォラーＦＲＢ理事が、１２月の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）で「利上げ幅を０．５０％に減速させることへの違和感が弱まった」との認識を示した。

一方で、１７日にブラード米セントルイス連銀がターミナルレート（利上げの終着点となる水準）について、市場の期待する４．７５～５．００％に対して、「５．００～５．２５％は最低水準」との見解を示した。さらに「十分に抑制的な水準としては５～７％になる可能性がある」指摘した。ブラード総裁のタカ派的な発言はドル買いにつながった。

１２月のＦＯＭＣ以降、利上げペースは減速するとみられる。もっとも利上げ停止のタイミングはデータ次第となりそうだ。ＣＭＥ　ＦＥＤウォッチでは次回１２月会合での０．５０％の利上げ確率は８０％前後、０．７５％の利上げ確率は２０％前後で推移している。

１１日に米消費者物価指数が下振れして以降、ドルは下落基調で推移してきた。ドルインデックスは１０日の高値１１０．９９２から１５日に１０５．３４０まで値を崩した。その後は下げ渋りを見せている。ドル円は１４６円台前半から１４０円台前半まで大きく下落した。その後、１５日に１３７円台後半まで下落した後は下げ一服となり、１３８～１４０円台でのもみ合いとなっている。

２１日の週の注目材料としては。２３日の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨（１１月１～２日分）がある。ここでは４会合連続で０．７５％の利上げを決定した。パウエル議長は１２月の会合で利上げペースの減速の可能性を示唆したものの、「最終的な金利水準は従来予想よりも高くなった」と述べており、今後の利上げペースやターミナルレートなどに関して新たなヒントが出てくるかが注目される。

また、２３日の米１０月耐久財受注速報値、米１１月製造業ＰＭＩ速報値などの経済指標も注目される。米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数は確報値ながら、１年先、５年先の期待インフレ率が市場の想定からかい離すると、ドル買いやドル売りに傾きやすくなろう。

日銀金融政策決定会合による金融緩和策の継続は円売り要因となり、ドル円の下支え要因となりそうだ。１０月の米消費者物価指数を受けてのＦＲＢによる利上げペース減速観測は徐々に織り込まれつつあり、ドル円はレンジ相場で推移してもみ合いになりやすいとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、１３６．００～１４２．００円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、２３日に米１０月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数、米１１月製造業ＰＭＩ速報値、米１１月サービス業ＰＭＩ速報値、米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米１０月新築住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨、２４日に日本９月景気動向指数改定値などがある。

【ユーロドルは高値圏でもみ合いか】
ＦＲＢによる利上げペース減速の見方が市場に広がり、ドル売りの動きとなり、ユーロドルは上昇基調で推移してきた。１５日には１．０４台後半まで上値を伸ばした。その後は大きく上昇してきた反動から伸び悩みを見せている。欧州中央銀行（ＥＣＢ）理事間のメンバーからは大幅な利上げ継続に関して慎重な意見も出てきており、ユーロドルの上値を抑える一因となっている。

ユーロには目立った買い材料はなく、ユーロドルの上昇はドル売りの側面が強い。ちょうど２００日移動平均線に上値を抑えられる格好となっており、同線近辺でのもみ合いが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０２００～１．０６００

ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、２１日に独１０月生産者物価指数、２２日にＮＺ１０月貿易収支、ユーロ圏９月経常収支、カナダ９月小売売上高、２３日にＮＺ準備銀行（ＲＢＮＺ）政策金利、独１１月製造業ＰＭＩ速報値、独１１月非製造業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月製造業ＰＭＩ速報値、ユーロ圏１１月非製造業ＰＭＩ速報値、英１１月製造業ＰＭＩ速報値、英１１月非製造業ＰＭＩ速報値、２４日に独１１月ＩＦＯ景況感指数、２５日にＮＺ第３四半期小売売上高、独第３四半期ＧＤＰ確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。